
第6章 公共交通体系整備の方針と目標

本市の公共交通の課題を踏まえ、今後の公共交通体系整備を進める上での基本方針及び目標水準を以下に示す。

1 公共交通体系整備の基本方針

将来に向けて持続可能で、かつ都市構造の変化や公共交通利用者のニーズ、福島空港を活かしたまちづくりの実現に対応した、新たな公共交通体系の構築を目指す

日常の生活交通において自動車利用が広く浸透している本市の中でも、自動車を利用できない高齢者や通学需要等の交通弱者の生活の足を提供することが必要である。そのため、本市では、多様な市民への快適な暮らしの提供及び地域コミュニティの活性化を図るため公共交通の維持確保への取り組みを今後も継続的に取り組む。

その中で、厳しい財政環境下における持続可能性を担保するため、効率性の高い公共交通体系を確立する。また近年の都市構造の変化や交通弱者の移動ニーズ、福島空港を活かしたまちづくりの実現に対応するため、従来の公共交通を単に維持するだけでなく、ネットワーク全体として見直しを図り、新たな公共交通体系の構築を目指す。

(1) 生活交通に対する施策方針

上記の基本方針を踏まえ、生活交通を中心とした具体の施策検討を行う際の考え方を以下に示す。

ア 需要に見合った効率的な公共交通ネットワークの確立

輸送特性の異なる路線バスや乗合タクシーを、地域の需要特性に合わせて使い分け、効率的な公共交通体系の構築を目指す。

イ 市中心部における回遊性の確保のための新たな地域交通の導入

市中心部に点在する複数施設間の往来を容易にすると同時に、市中心部居住者の自動車から公共交通への転換促進を図るため、市中心部における回遊性の確保を目的とした「新たな地域交通」の導入を目指す。

ウ 産官民の連携による公共交通サービスの維持・確保

産・官が独自に運営する多様な交通資源を効率的に統合・運用し、また市民による公共交通の運営参画や市民による公共交通の積極利用等を促進する等により、将来に向けた新しい公共交通サービスの維持・確保のあり方を検討する。

エ 公共交通の利用促進に向けた啓発活動・情報提供の充実

地球環境問題や高齢化社会への対応、通学等の日常生活支援等の面での公共交通の必要性・利用促進の意義を広く啓発するだけでなく、実際に公共交通を利用する機会・きっかけを市民に与えるべく、公共交通の利用方法や運行ダイヤ等の情報提供の充実を図る。

(2) 福島空港利用促進の視点に立った施策方針

須賀川市総合計画におけるまちづくりの核である「福島空港」へのアクセス確保により空港及び地域の活性化を図るため、関係機関との連携を図りつつ、また社会経済動向を注視しながら、長期的な視点で須賀川市内～福島空港間のアクセス路線を検討する。

ア 須賀川市内～福島空港間のアクセス路線の意義

福島空港の利用低迷や過去の須賀川駅～福島空港間の路線バス廃止、社会全体の景気の停滞などの現状があるものの、須賀川市内～福島空港間のアクセス路線の整備は、空港を活かしたまちづくりを推進する本市にとって、また福島県全体にとって、以下のような意義がある。

(ア) 本市にとっての意義

- ・市民の空港アクセス利便性の向上
- ・空港勤務者・空港来訪者の移動性の確保
- ・工業団地等への企業誘致の促進
- ・市内観光地への観光客誘致の促進

(イ) 全県的な見地からの意義

- ・福島空港を活かした国内・国外との広域交流の促進
- ・福島空港から県内各市町村への公共交通によるアクセスルートの構築（鉄道利用による空港へのアクセス利便性の向上）
- ・国内外からの個人観光客の受け入れ強化

イ 須賀川市内～福島空港間のアクセス路線への取り組み方針

以上を踏まえ、今後、本市としては、須賀川市内～福島空港間のアクセス路線については以下の方針で取り組みを進める。

- ・須賀川市総合計画におけるまちづくりの核である「福島空港」とのアクセス確保により空港及び地域の活性化を図るため、関係機関と連携しながら、須賀川市内～福島空港間のアクセス路線を検討する。
- ・ただし、現在の社会情勢、新たなプロジェクトの進展が見込まれない状況等を鑑み、長期的な視点での取り組みと位置づける。
- ・今後、景気動向の好転や、大規模なプロジェクト・企業立地の動向、関係機関の動向等を注視しつつ、事業環境に改善が見られた段階から実現化に着手する。
- ・実現化にあたっては、乗合タクシーによる社会実験等から着手し、需要動向に応じたサービス形態を模索（また需要拡大に応じてサービス形態を弾力的に見直し）し、効率的かつ効果的なアクセス路線として整備する。

2 評価指標と目標水準の設定

本ビジョンの実現による効果を今後検証する際の数値的な評価指標及び目標水準を以下に示す。

